

◎先週のメッセージの概要【耳を切り落とされたしもべ】

《この記事は、四つの福音書に書かれています。三つの共観福音書では、剣を抜いて大祭司のしもべの耳を切り落とした弟子が誰であるのかは書かれていません。しかしヨハネは、その弟子がペテロであること、そしてそのしもべの名前がマルコスであったことを明確に書き記しています。ヨハネがなぜマルコスの名前を知っていたのかですが、彼は大祭司と知り合いであったこと、そしてマルコスがその後、イエス様を信じ救われたからだと思われるのです。

イエス様は、ゲッセマネに行く直前に、弟子たちに不思議な命令を下されました。「しかし今は、財布のある者は財布を持ち、同じく袋を持ち、剣のない者は着物を売って剣を買いなさい。『彼は罪人たちの中に数えられた。』と書いてあるこのことが、私に必ず実現します。」と。

実は、このことは比喩的表現なのですが、弟子たちには理解出来ませんでした。「剣を買いなさい」とは「剣を持ちなさい」という意味です。しかし弟子たちは、その時すでに護衛用として、剣を二本、常に所有していたのです。

ルカの福音書では、イエス様が、右の耳を切り落とされたしもべにさわられていやされたことを書き記しています。マタイとマルコでは、単に「耳を切り落とされたしもべ」となっていますが、ルカとヨハネは「右の耳」と書いています。これは後に、どちらの耳が切り落とされたのかが明確となったことを表わしています。これこそが、マルコスが救われた証拠なのです。私は、イエス様は、マルコスの右の耳を、瞬間的に新しく創造されたと考えています。

さてイエス様が、「買うように」「持つように」と言われた「剣」とは何なのでしょう。その答えを使徒パウロは、エペソ人への手紙に書き記しています。『救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神の言葉を受け取りなさい。すべての祈りと願いを用いて、どんな時にも御霊によって祈りなさい。』

イエス様が言われた「剣」こそ、神の言葉である「聖書」なのです。み言葉こそが、クリスチャンの唯一の武器です。そして「祈り」が、あらゆる事態を好転させ、また様々な不思議とするしや奇跡を引き起こすべく、カギなのです。》

◎お知らせ

※次回の礼拝は7月14日です。そして次回「聖書の学びと祈り会」は、7月10日(水)に行ないます。また7月24日(水)の祈り会は、鈴木牧師が神学校リトリート(7月22日(月)～24日(水)2泊3日)に参加しますのでお休みとなります。

めぐみイエス・キリスト教会

2019年7月7日(日)第一主日礼拝
週報「通算第463号」



7月7日「たなばた」

2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年7月7日 第一主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

- 【前奏祈祷】
- 【賛美Ⅰ】 新聖歌444「屈するなかれ」 p. 716
- 【交読文】 No.38 詩篇第121篇 p. 910
- 【賛美Ⅱ】 新聖歌21 「輝く日を仰ぐとき」 p. 28
- 【使徒信条・主の祈り】
- 【先週説教】
- 【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.4「天には救いの喜び」
- 【聖書朗読】 ヨハネの福音書18章11節～14節
- 【祈 禱】
- 【説 教】 《大祭司のもとへ》 鈴木 竜実 牧師
- 【聖 餐 式】
- 【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235
- 【平和祈り】
- 【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85
- 【祝祷後奏】

◎本日の聖書箇所【ヨハネの福音書18章11節～14節】(新約p.199)

18:11 そこで、イエスはペテロに言われた。「剣をさやに収めなさい。父がわたしに下さった杯を、どうして飲まずにいられよう。」

18:12 そこで、一隊の兵士と千人隊長、それにユダヤ人から送られた役人たちは、イエスを捕えて縛り、

18:13 まずアンナスのところに連れて行った。彼がその年の大祭司カヤパのしゅうとだったからである。

18:14 カヤパは、ひとりの人が民に代わって死ぬことが得策である、とユダヤ人に助言した人である。

●ポイント1. 大祭司の仕事とは？

※レビ記16章15節～17節抜粋「大祭司アロンの職務」 (旧約p.183下段)

アロンは民の為の罪の為のいけにえのやぎをほふり、その血を垂れ幕の内側に持ってはいり、それを『贖いのふた』の上と前に振りかける。

彼はイスラエル人の汚れと、そのそむき、すなわちそのすべての罪の為に、聖所の贖いをする。彼は自分と、自分の家族、それにイスラエルの全集会の為に贖いをする。

●ポイント2. 大祭司アンナスとカヤパとは？

■アンナス 紀元6年クレニオによって大祭司に任命され、紀元15年に退位させられる。ローマは大祭司を退位させ、別の人物を任命したが、ユダヤでは、大祭司職は終生のものであった。自分の5人の息子と婿カヤパが大祭司になったことから、アンナスは、自らの退位後も大きな影響力を持っていた。

■カヤパ カヤパと呼ばれるヨセフは、ピラトの前任者グラトゥスによって、紀元18年に大祭司に任じられ、36年シリア総督ヴィテリウスによって解任されるまでその職にあった。大祭司アンナスの婿として密接な協力関係にあった。

※ルカの福音書3章2節「バプテスマのヨハネの出現」 (新約p.102上段)

3:2 アンナスとカヤパが大祭司であった頃、神の言葉が、荒野でザカリヤの子ヨハネに下った。

※ヨハネの福音書11章49節～52節「カヤパの預言」 (新約p.185下段)

11:49 しかし、彼らのうちのひとりで、その年の大祭司であったカヤパが、彼らに言った。「あなたがたは全然何もわかっていない。

11:50 ひとりの人が民の代わりに死んで、国民全体が減びないほうが、あなたがたにとって得策だということも、考えに入れていない。」

11:51 ところで、このことは彼が自分から言ったのではなくて、その年の大祭司であったので、イエスが国民のために死のうとしておられること、

11:52 また、ただ国民のためだけでなく、散らされている神の子たちを一つに集めるためにも死のうとしておられることを、預言したのである。

●ポイント3. 当時の大祭司と永遠の大祭司の対面と権限の委譲

※ヘブル書7章23節～28節「永遠に存在されるお方」 (新約p.396下段右側)

※ヘブル書9章11節～14節「ご自分の血によって」 (新約p.398下段右側)

◎先週のメッセージの概要【耳を切り落とされたしもべ】

《この記事は、四つの福音書に書かれています。三つの共観福音書では、剣を抜いて大祭司のしもべの耳を切り落とした弟子が誰であるのかは書かれていません。しかしヨハネは、その弟子がペテロであること、そしてそのしもべの名前がマルコスであったことを明確に書き記しています。ヨハネがなぜマルコスの名前を知っていたのかですが、彼は大祭司と知り合いであったこと、そしてマルコスがその後、イエス様を信じ救われたからだと思われるのです。

イエス様は、ゲッセマネに行く直前に、弟子たちに不思議な命令を下されました。「しかし今は、財布のある者は財布を持ち、同じく袋を持ち、剣のない者は着物を売って剣を買いなさい。『彼は罪人たちの中に数えられた。』と書いてあるこのことが、私に必ず実現します。」と。

実は、このことは比喩的表現なのですが、弟子たちには理解出来ませんでした。「剣を買いなさい」とは「剣を持ちなさい」という意味です。しかし弟子たちは、その時すでに護衛用として、剣を二本、常に所有していたのです。

ルカの福音書では、イエス様が、右の耳を切り落とされたしもべにさわられていやされたことを書き記しています。マタイとマルコでは、単に「耳を切り落とされたしもべ」となっていますが、ルカとヨハネは「右の耳」と書いています。これは後に、どちらの耳が切り落とされたのかが明確となったことを表わしています。これこそが、マルコスが救われた証拠なのです。私は、イエス様は、マルコスの右の耳を、瞬間的に新しく創造されたと考えています。

さてイエス様が、「買うように」「持つように」と言われた「剣」とは何なのでしょう。その答えを使徒パウロは、エペソ人への手紙に書き記しています。『救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神の言葉を受け取りなさい。すべての祈りと願いを用いて、どんな時にも御霊によって祈りなさい。』

イエス様が言われた「剣」こそ、神の言葉である「聖書」なのです。み言葉こそが、クリスチャンの唯一の武器です。そして「祈り」が、あらゆる事態を好転させ、また様々な不思議とするしや奇跡を引き起こすべく、カギなのです。》

◎お知らせ

※次回の礼拝は7月14日です。そして次回「聖書の学びと祈り会」は、7月10日(水)に行ないます。また7月24日(水)の祈り会は、鈴木牧師が神学校リトリート(7月22日(月)～24日(水)2泊3日)に参加しますのでお休みとなります。